

科目ナンバリング									
授業科目名 <英訳>		地域地理学各論II (欧米) Topics in Regional Geography II(Europe and America)				担当者所属 職名・氏名		地球環境学舎 教授 山村 亜希	
群	人文・社会科学科目群			分野(分類)	地域・文化(各論)			使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義 (対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2024・前期		曜時限	火4		配当学年	全回生	対象学生	全学向
【授業の概要・目的】									
<p>「地域」とは、その土地固有の歴史・地理環境のもと、長い年月をかけて、人間社会が形成した産物であり、それゆえに個性を持つ。地域地理学は、このような大地と人間の物語として形成された「地域」の特性（地域性）を、それぞれの土地で見出し、その成り立ちと仕組みを考える。</p> <p>本授業では、ヨーロッパ地誌として、西欧の歴史都市の景観に焦点をあてる。古代・中世の西欧では、ローマ帝国の拡大、キリスト教の伝播、地中海社会の盛衰、北欧バイキングの襲来など、共通する歴史的条件をそれぞれの土地が経験しながらも、結果として形成された中世都市の景観には、共通点とともに、地域ごとに異なる特性が深く刻印された。地域ごとに異なる中世都市の個性は、現代においても、ヨーロッパの多様性として受け継がれ、その地の文化的価値を高めている。</p> <p>本授業では、「地図と写真で学ぶヨーロッパ港町紀行」と題し、西欧各地の中近世の港町を事例とし、16世紀の都市図や、近現代の地形図、現地撮影した写真を活用しながら、その都市景観の特性（地域性）を見出す。そして、その地域性を形成した歴史・地理環境と、景観の形成プロセスについて解説する。</p>									
【到達目標】									
<p>「地域」の基本的な見方・考え方を理解する。現代から歴史を遡って、過去の景観を復原し、その特性を見出す視点と方法を学ぶことで、西欧における、今の景観の特性や文化的価値を説明できるようになる。</p>									
【授業計画と内容】									
<p>基本的には以下のプランを進めるが、授業の進行状況に応じて、順番や対象地を変更することもある。1対象地につき、1～2週で授業を進める。</p> <p>第1回 景観写真にみる西欧都市の多様性 授業の概要説明 第2・3回 町と大学と川湊：ケンブリッジ（イギリス） 第4・5回 北海の寒村から大航海時代の港湾都市へ：アムステルダム（オランダ） 第6・7回 中世の「迷宮都市」：ベネチア（イタリア） 第8回 大航海時代の到来と港町：コインブラ、ポルト（ポルトガル） 第9回 スペインの「城下町」と港：マラガ（スペイン） 第10・11回 フランス国家の海洋戦略と港町：マルセイユ、サン・マロ（フランス） 第12回 地中海シチリア王国の繁栄と港町：パレルモ（イタリア） 第13・14回 北海とハンザ都市：リューベック・ハンブルグ（ドイツ） 第15回 フィードバック</p>									
【履修要件】									
特になし									
----- 地域地理学各論II (欧米) (2)へ続く -----									

地域地理学各論II (欧米) (2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポート60%、平常点(コメントペーパー・出席等)40%

[教科書]

使用しない
毎回プリントを配布する。2週連続で使用する場合もある。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で紹介する参考文献を読んで予習・復習とする。

[その他(オフィスアワー等)]

授業中に地図や図表に着色するなどの作業を行うことがあるので、色鉛筆や色ペンなどを複数色持参すること。中学・高校で使用した地図帳を持参するのが良い。